

## 「自閉症児のサポ - トブック」を目にして

先に「雑学 BN」の「情報等紹介コ - ナ - 」で、「自閉症児のサポ - トブック」を母親が刊行したとの報道記事を紹介したが、その書籍に目を通した。

帯に「一口に自閉症といっても、知的能力と自閉的症状は人それぞれです。そのため、サポ - ト方法はサポ - トを受ける方により異なります。だからこそ、サポ - トサイドが各個人にあったサポ - トをするために、サポ - トを受ける方のあらゆる情報を共有する事が必要となります。そのために必要なのがサポ - トブックです。」との記載通り、我が子を教師、ボランティア、等々にサポ - トしてもらう時に、著者が我が子の行動特性やその行動特性への対応の方をガイダンス的に纏めた書籍であった。

自分は家庭訪問時、親御さんに「その都度、我が子のことを説明するのは大変だろうから、生育歴、行動様式等はファイルにしておいて見て貰った方がいいよ」とアドバイスしていた。

また、持論のコミュニケーション論（人間関係、係わり合い）から云えば、互いの背景の異なりを考慮することが前提であるだけに、サポ - トしてくれる相手に我が子の行動の背景を速やかに理解してもらうために、我が子の行動背景情報としてのサポ - トブックを工夫し作るとは、大事なことのように思う。

一方、「サポ - トサイドが各個人にあったサポ - トをするために、サポ - トを受ける方のあらゆる情報を共有する事が必要となります。」と書いているように、あくまで個々のサポ - トブックが必要となるので、こうした意味から、この著書は、我が子用のサポ - トブック作成のためのモデルと位置づけて目にするのが最も適切でないかなと思った。

恐らく、著者もそうした意図での刊行だろうと推測する。

あえて欲を云わせていただけるなら、我が子が既に持つ行動特性の理解、その行動特性への対応の仕方だけでなく、推薦人の文章にある「サポ - タ - が変われば、子も変わる！」という側面を、もう一歩も二歩も踏み込んだ実践へのアドバイスが書かれていたらなあと思った。

つまり、サポ - タ - （親を含め）がどう変われば、子どもの行動がどう変容し、また、どう行動を獲得していくのかという側面である。

正に、そこに、他の子どもにも汎化し得る係わり合い方へのヒントがあるような気がする。

著者が、こうした側面、視点から、次の書の刊行にチャレンジすることを期待したい。